

今後の展望

# サイバーワールドのこれから

A Future of Cyberworlds

井原雅行

## 1. はじめに

本稿では、サイバーワールド（CW）時限研専が2005年に描いた将来展望と対比させつつ、また、昨今言われているインダストリー4.0における観点を交え、サイバーワールドのこれからの展望する。

## 2. サイバーワールドの将来

本研専では、FIT2005で「サイバーワールド・フィールドマップを作る～今後の発展領域と研究分野」と題したイベント企画を実施している。当時描いたマップを図1に示す。イベントの全参加者に各自が重要と思うキーワードを付箋に書き出してもらい、関係の深いキーワードを近くに配置した結果として「技術」「経済・ビジネス」「社会学」「ヒューマン」という四つの象限にキーワードがマッピングされている。

一方、第三次産業革命に続く「インダストリー4.0」が提唱されているが、これの基となる理論に大量生産から実需のカスタマイゼーションへと変革する「客業生産」がある。インダストリー4.0では、IoT、サイバーフィジカル、拡張現実、ビッグデータといった技術用語と並んでカスタマイゼーションの重要性が言われているが、図1のマップにおいても技術と同様にヒューマン領域が経済や社会と並んで統一的に俯瞰、展望されている点は大変興味深い。

人間（顧客）中心のサービスを展望する意味で、同マップのヒューマン象限にあるキーワードの中には参考になるものが多いのではないだろうか。技術象限にあるキーワードは時代とともに変化していくが、ヒューマン象限には「幸せ」「自己実現」「個の保持」といった不変

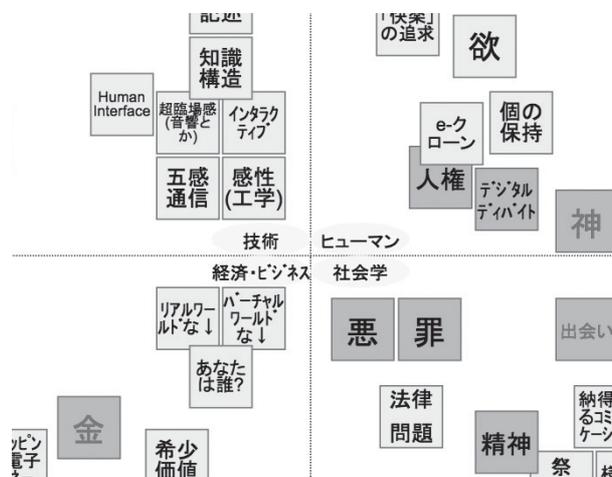


図1 サイバーワールドマップ 2005年に作成された将来展望マップ ([http://www.ieice.org/iss/cw/jpn/map\\_fit05.pdf](http://www.ieice.org/iss/cw/jpn/map_fit05.pdf))

性の高い概念がキーワードとして並んでいる。これらをカスタマイゼーションがもたらす価値と解釈し、関連技術を想像すると新サービス創出につながるのではないだろうか。例えば「カスタマイゼーションで自己実現を支援するIoT」といった具合である。これからの時代、研究者も新しい技術を考える際にカスタマイゼーションの価値を描くことが求められているのかもしれない。

## 3. おわりに

本特別研専では、毎回、異なる応用分野に焦点を当て、産業界等からの招待講演を企画している。是非積極的に参加して頂き、研究開発を産業に生かすのに活用して頂きたい。

(平成29年5月10日受付 平成29年6月6日最終受付)

井原 雅行 (正員)  
1096 ページ参照。

井原雅行 正員 日本電信電話株式会社 NTT サービスエボリューション研究所  
E-mail ihara@acm.org  
Masayuki IHARA, Member (NTT Service Evolution Laboratories, NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE CORPORATION, Yokosuka-shi, 239-0847 Japan).  
電子情報通信学会誌 Vol.100 No.10 p.1097 2017年10月  
©電子情報通信学会 2017